



**台風19号の大雨で、
ふくれあがった多摩川**
青梅市は、約60%が山です。
植林と手入れをして崖崩れに強い
山を作っていく必要があります。
その為に林業の担い手を育てるよ
う私は市にもとめています。



多摩産材の初せり
美しい木材が、青
梅市内の学校で使わ
れたらいいなあ



「みんなの学校」ご存じですか？

大阪市立小学校の元校長の木村康子さんの話を伺いました。相模原で不登校など子どもたちの問題を考えている方たちが企画した講演会です。彼女のいた学校での決まりごとは一つだけ。

「自分が嫌なことは人にもしない」。障がいのある子どもみんな同じ教室で学びます。相模原市は19名の障がい者が殺されたやまゆり園事件のあったところです。子どもたちがお互いを否定せず、足りないところを助け合う木村さんの学校の話は勇気をくれるものでした。

全国学力テストの点数を上げるためにする勉強は10年後に子どもたちが生きる力になるのか？という問いかけに私も共感。

● 学校内での教員の喫煙 ●

市内の公立学校は10数年前から校内での喫煙を禁止しています。ところがある中学校内で学校幹部も含め何人もの先生が、使っていないシャワー室をタバコ部屋にして吸っていたそうです。私は学校に調査を求めました。しかし知らぬ存ぜぬ、の一点張り。様々なやり取りがあり「吸っていた」と学校側が認めたのは3か月後です。写真が決め手になりました。保護者には「タバコは校門の外で」と言いながら、自分たちは職員室に近い場所で吸っていたのには驚きました。

● 青梅駅前再開発 ●

青梅駅に向かって左側の古い3階建の民間ビルを壊して13階のビルにする計画。青梅市も多額の費用を負担。令和2年度は9600万円を支出。建設費用は70億円をこえそうです。今後も市の負担がふえつづけます。それなのに、市民にはほとんど情報が知らされない。中心市街地活性化の補助金を使い、市民の税金もたくさん投入するのですから、情報公開をするべきです。

ひだ 紀子

☆どこの政党にも属していません。一人会派です



青梅市議会議員・議会報告 vol.25

● コロナウイルス ●

みなさんがこの議会報告を読んでくださるころは一体どうなっているのでしょうか。

人類は感染症と闘い、これまで生きてきた歴史を持っています。対策もないまま数千万人が亡くなった時代とは違い、医療と科学があります。社会が不安に包まれるとデマが広がり、感染した人へのバッシングなども起こりやすくなります。患者さんは感染したくて感染したわけではありません。実際だれにでも感染の可能性はあるのです。いじめなどは絶対にダメですよ。

今後は経済活動のちぢみにより、世界的に大きな影響があります。特に非正規・フリーランス・個人事業主は本当にたいへんです。観光業も大打撃を受けます。細やかなところまで目を届かせ、収入補填の給付などをしていくべきだと考えます。

だれもが神経を使い、疲れてきています。でもたとえ感染したとしても、80%の人は軽症ですむとのこと。重症者の命を救うには病院を確保することが大切になります。いたずらに感染を広げないように、注意深く過ごしましょう！



議会報告を配るため
市内を歩いて13年。

「空き家が増えた」と強く
感じます。

人が住まないと家も生気を
なくします。さびしい気持ち
になります。

国の調査では青梅市内の空
き家は6900戸とのこと。
これから市が現地調査をし、

市民生活に支障があるよう
な空き家の把握もしていく
とのこと。また市の住
宅相談では空き家の処分に
困っている方の相談もでき
るとのことです。

議会内会派名〈みどりのオンブズマン〉ひだ紀子議会報告 vol.25 2020 春

連絡先: 〒198-0171 青梅市二俣尾2-435

tel/fax 050-1332-9289 メールmidorionbu@msn.com

☆詳しい事はひだ紀子ホームページ・FACEBOOKをご覧ください



学校図書館の本が足りない

小中学校の時、どんな本を読んでいたか？日本人が平均して人生の中で一番本を読むのは、このころだそうです。良い本に出会えて、人生が変わる場合もある。学校図書館は大切な場所なのです。ところが調べてみたら・・・市内の小中10校で、国が決めた標準図書数に足りていないことがわかりました。

蔵書数不足の学校

ワースト 5
(こんなに足りてません)
新町中 3000冊
第三小 2500冊
河辺小 2500冊
第二小 1500冊
第七中 1200冊
(平成29年度)

国は公立校の図書需要額として青梅市に2150万円交付しているはずだが、市教委が学校図書に使った予算は1400万円(平成30年度)。つまり図書費に充てなかった750万円を市はほかのことに使ってしまったのです。多分長年にわたり、こうしてきたのでしょう。

学校司書も多摩26市の中で一番少ない

昨年3月、市は「河辺中央図書館の駐車場無料サービスをやめる。」
「そのお金で小中に学校に図書館司書を配置する」と市議会に報告しました。

「駐車場サービスをカットするのは市民には不利。しかし、子供たちのためにお金を回すなら、しかたない」私はそう受け止めました。ところが学校図書館に司書が派遣されるのは週一日でそれも5時間のみ。少なすぎる。調べてみたところ、これは三多摩の26市の中で最低のレベルです。

国からは司書配置のための費用が「市に必要なお金」として来ているはずですが、これまた図書費と同じで使うべきところにきちんと充当されていないようです。

多摩の22市ですでに導入済みの学校図書システムもない!

青梅市内の小中は昔ながらの方法で蔵書管理。

これでは先生たちもたいへん。図書館は本の入れ替えが大切なのだが、それもあまり進んでいない。つまり古い本が多い。図書システムは必要です。

文化交流センター(ネッツたまぐーセンター)に多くの不具合
昨年5月にオープンしたばかり。ですが問題がたくさんあるのです。

● 地下の練習室から上へ音漏れ

みんなが使う施設としては致命的欠陥だと思う。

上の多目的ホールを使うときは「音を控えてくださいますか」と地階へお願いに行くと聞いた。今後50年にわたり、青梅市民はこんな不便を我慢しなくてはならないのか、と思うと情けなかった。私の指摘に対して、「地下防音室の防音は完全だ」などと答えていた市役所だが、ついに問題を認め約3800万円の防音工事を追加することになった。工期は来年1月～3月。今度は期待できるのだろうか？

● 地階の湿気と浸水

新築なのに浸水。そして楽器がかびるほどのものすごい湿気。これも致命的といえよう。

工事の際に地下水による事故があったと聞く。地下水対策は完ぺきにするべきであった。ところが私が地階の防水をチェックしてみると中レベルと思われます。水は怖い。甘く見てはならない。地下水とは関連がない、と説明してきた市役所だが、12月議会で一転して「想定外の地下水の量が原因だ」と認めた。

使うべき所にはお金をかけて、しっかりした施設をつくるべきではないでしょうか。

● ネッツたまぐーセンターの駐車場はなぜ有料?

市は「(株)まちづくり青梅」という団体に市価の1/12 の賃料でたまぐーセンターの裏の駐車場を貸しています。この団体の活動資金を援助するためだそうです。

超格安。センター利用者が75 % くらい使うから、という理由だそうです。センター利用者は4時間100円を駐車場に支払い、そのお金はこの会社の収入になります。今までのように市民は無料で使いたいという声がいっぱいあります。決して交通の便がいいわけではない青梅ですから。

